

あなたの輝きを生かしてください！

てしかがまちづくり人財バンク

さまざまな力を活用してください！

地域の方の趣味の活動やまちづくり活動の役に立ちたい 活動のお手伝いをしたい

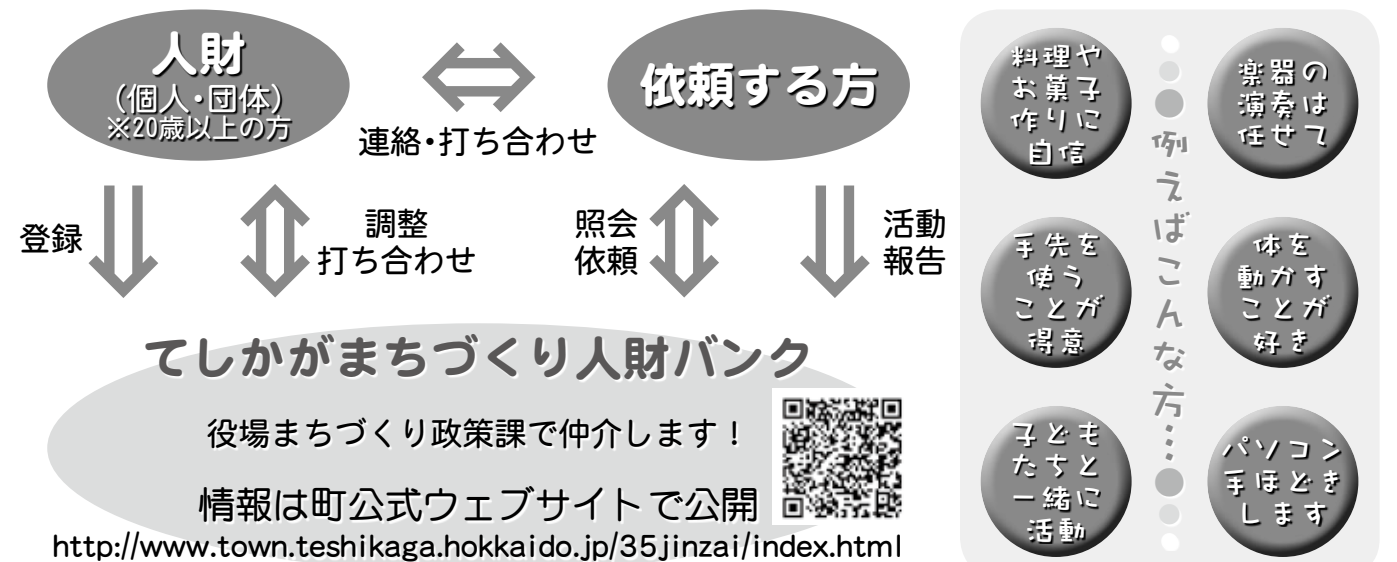


経験 知識 技術

町では「てしかがまちづくり人財バンク」を始めます。

皆さんがお持ちの経験や知識、技術などを地域活動やまちづくり活動に生かしたいという個人やグループの登録を受け付け、力を必要としている地域の皆さんとつなぐ制度です。この制度により、人財のネットワーク化や相互交流を進め、まちづくりの担い手育成と活用を図っていきます。

さまざまな力をお持ちの方が多く弟子屈町。あなたの登録をお待ちしています。



てしかがまちづくり人財バンク

役場まちづくり政策課で仲介します！

情報は町公式ウェブサイトで公開

<http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/35jinzai/index.html>

▶人財バンクへの登録を希望される方／申請用紙に必要事項を記入し、まちづくり政策課に提出してください。申請用紙はまちづくり政策課にあるほか、町公式ウェブサイトからダウンロードすることもできます。

▶登録されている人財の活用を希望される方／必ずまちづくり政策課にご連絡ください。

※本町にとって人は「財産」であるため「人の財産」という意味を込めて、人材ではなく「人財」としています。

問い合わせ先／役場まちづくり政策課政策調整係 ☎ 4 8 2 - 2 9 1 3 (課直通)

協力隊通信

高木さん(左)
&
炭田さん(右)



5月 弟子屈神社の桜がきれいでした

日々の活動
発信中！



地域おこし協力隊facebook(フェイスブック)

<https://www.facebook.com/teshikagachiikiokoshikyouryokutai>

シラカバ樹液を活用して 新特産品を生み出したい

地域おこし協力隊の高木浩史です。

先日、弟子屈町ブドウ・ブドウ酒研究会の定期総会が開催されました。今年度は、秋に町内の飲食店などで弟子屈産ワインを味わうイベントの開催、ブドウの栽培拡大などが事業計画に盛り込まれました。2015年産ワインの完成時期は6月ごろを予定しており、本数は昨年の64本の2倍程度となる見込みです。本数は昨年より多いですが、一般販売するにはまだ十分な量ではありませんので、イベント形式で町民の皆さんにワインを味わっていただきたいと思っています。

ワイン以外の特産品開発の一環として、シラカバ樹液の活用を検討しました。シラカバは春先、芽吹き直前のわずかな期間に大量に水分を吸い上げます。この時期に幹に小さな穴を開けると、雫がしみ出てきます。これがシラカバの樹液です。無色透明でほんのり甘く、かすかに木の香りを持つ樹液は豊富なミネラル、特に鉄分を多く含みます。鉄分は人間の血液をつくるのに重要な要素ですので、妊婦さんや成長期のお子さんなどに効果的とされています。しかし、樹液はそのままと日持ちしないので、素材を生かしたシラカバシロップとシラカバゼリーに加工しました。シラカバシロップは樹液を煮詰め、メープルシロップに近い状態まで濃縮しました。



シラカバの樹液を採取しているところ

メープル(カエデ)よりもすっきりとした甘さで香りが良く、ヨーグルトやチーズといった乳製品と相性抜群です。シラカバゼリーは樹液を固めただけのシラカバゼリーですが、シラカバシロップをかけて味わうと、優しい甘さと木の香りが口いっぱいに広がります。シロップ、ゼリーとも販売に向けた検討を進めていますので、近いうちに販売のお知らせができるように頑張りたいと思います。

南弟子屈が目指す活性化 心一つにゴール目指して

地域おこし協力隊、炭田晃希です。

5月11日に南弟子屈地域活性化協議会の総会が開催され(23ページ参照)、昨年度の事業報告や今年度の事業計画の説明がありました。

昨年度1年間かけてワーキンググループや話し合いを行い、南弟子屈地域が目指す将来ビジョン「人が集まり集う



今年度の総会を終えて気持ちも新たに

の将来ビジョンを策定しました。ゴールが見えれば、それに向かってみんんで突き進むのみ!!今年度も楽しく活動していきます!

町の玄関口 南弟子屈を策定しました。今年度はこのビジョン達成のために、旧昭栄小学校を中心とした南弟子屈でさまざまな活動を行います。話し合いなどしないで、すぐに活動していればもっとたくさんの時間を活動に充てられたのと思うかもしれませんが、これにはきちんと理由があります。最終的には「南弟子屈の活性化」を目指す活動をしていくのですが「活性化」の定義は幅広く、人によって解釈がちよっとずつ異なっているかもしれません。そのままそれぞれが活性化を目指す活動としても、ゴールがぼんやりとしてしまい、最大の効果を上げることができなくなってしまう。